

2020年度 第1回 JSR 編集委員会 議事録

日時：2020年6月25日（木）18時～19時

場所：オンライン（Zoom）会議

出席：長谷川 和宏（担当理事）、大島 寧（委員長）、川口 善治（アドバイザー）、明田 浩司、今城 靖明、鈴木 亨暢、高野 裕一、竹内 大作、二階堂 琢也、長谷 斉、福岡 宗良

欠席：赤澤 努、高畑 雅彦

陪席：事務局／鈴木 杏林舎／片山、鶴間、明松（記）

長谷川理事より理事会決定事項として川口委員長がアドバイザーに、大島委員が委員長に就任され、新たに Deputy Editor として明田浩司委員が参加される事が報告された。これに伴い川口アドバイザー、大島委員長、明田委員より挨拶がなされ各委員も自己紹介を行った。

以下、大島委員長を司会進行役として会議が行われた。

報告事項（大島委員長より）

1. 投稿規定修正、JSR 公式 HP 修正、編集事務局サブアドレスのご案内、JSR 投稿・掲載状況などについて。
2. 先日のメール審議で「バナー広告は月単位の申請を認め、一件当たり月額 50,000 円とする」と決議した件が理事会承認となった。
3. 学術集会在 9 月 7 日～9 日に延期になったため優秀論文の執筆依頼も後ろ倒しとなり 12 巻の脊椎脊髄病学会（1、2、5、9 号）は掲載数が通常より減少する可能性がある。

審議事項

1. 脊椎脊髄病学会（1、2、5、9 号）の今後の発行について
 - 長谷川理事：日本医学会への参加の為には年 12 号（毎月発行）が必要との認識だったが事務局に再確認して頂き日本医学会より「そういったことはない」と確認が取れたのでまとめられるところはまとめてもいいのではないか。
 - 川口アドバイザー：号数について長谷川理事と同じ認識であった。冊子の際は構成の為 15、6 本の論文が必要であり、不足の際は原稿を依

頼する事もあったがオンライン化した現在、掲載本数が少ない事もあるならば統合してもいいのではないか。

→各委員から特別な意見はなく、論文数をみて判断することで合意した。

2. 各関連学会における問題点

大島委員長から各学会特集号への影響について質問があった。

- 二階堂委員：腰痛学会は10月に開催予定だが会場が札幌なので今後の状況次第だと考える。
- 福岡委員：東海脊椎外科研究会は年2回の開催であるが今年の5月開催分は中止になっており、研究会で発表してもらって論文として投稿してもらっていた分が減る可能性がある。秋に開催される分で本数を維持できればと考える。
- 長谷委員：JPSTSSは10月開催予定だがまだ不明確な状態。演題の集まりが悪く次の雑誌発行の際は影響があるのではないかと考えている。
- 今城委員：西日本脊椎研究会は5月の学会が中止になった。11月は開催予定で動いているが症例報告が増える可能性がある。
- 高野委員：日本低侵襲脊椎外科学会は9月末に開催を予定しており開催されれば来年度も今年度同様13本前後論文を準備出来る予定。
- 竹内委員：インスト学会は10月22、23日にwebで開催予定。開催されれば原稿は問題なく集まるかと思われる。
- 長谷川理事：コロナウイルスの影響で各学会が開けない可能性がある事を考え、学術集会開催前から積極的に論文募集をしてはどうか。
- 川口アドバイザー：通常JSSRでは学会終了後、演題査読結果上位100名に執筆依頼を送っている。今年度分は現時点で抄録の評価を学術集会の担当者に確認し早めに論文化の依頼をしてもいいのではないか。

→今年度は学術集会を待たずに論文の依頼をすることで合意した。

3. JSSR 会員向け郵送物について（優秀論文についてなど告知事項の検討）

- 川口アドバイザー：情報共有について今後はHPなどオンラインで確認できた方がいいのではないか。
- 鈴木委員：電子化されると論文が目に入る機会が減ってしまう可能性がある。投稿を促すなど雑誌の宣伝をする必要があるのではないか。
- 長谷川理事：雑誌が発刊される度に全会員(メールアドレスを登録済の会員は約7割)にメールを送ってみてはどうか。
- 事務局 鈴木氏：以前SSRRでも同様に会員へメールを送ってほしいと依頼があり広報委員会を通さず送ったことがあるのでお知らせのメールを送

る事は可能。ただし g-mail の設定上 1 日 2000 件までしか送信ができない。

- 杏林舎 片山氏：他学会ではメールマガジン配信の際に編集後記として各担当の先生方が執筆をされているので JSR でも同様に先生が編集後記を執筆し読まれやすくしてみてもどうか。

→郵送物の内容については大島委員長に一任とした。今後のメール配信については鈴木氏を通じてお願いする方針とした。

4. その他

- 長谷川理事より 6 月 18 日の理事会にて新技術検討委員会より「問題となっている LIF 合併症の調査結果をダウンロードできるような報告として残したい」との意見があり JSR にて JSSR の委員会報告書など会員全員に周知する必要があるものを掲載してはどうかと意見を求めた。
- 大島委員長：雑誌の存在意義としても掲載すべきである。あるいは HP に載せるのも一案である。
- 鈴木委員：必要な内容だったらどちらに載せてもいいのではないかと。
→掲載方法によっては投稿規定の修正の必要もあるため詳細は今後メール審議で詰めることとなった。

- 川口アドバイザーより今年の掲載数やコロナウイルスの影響を考えると JSSR 優秀論文賞を選出する事が難しい可能性があるという意見があった。

→まずは原稿依頼を呼びかけその結果を見て判断することにした。

次回開催予定

第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術集会の開催日（9 月 7 日～9 日）に現地開催するか、あるいは学術集会後に web 開催にするか、状況を見て決定する方針とした。